

第 1 入間市の概要



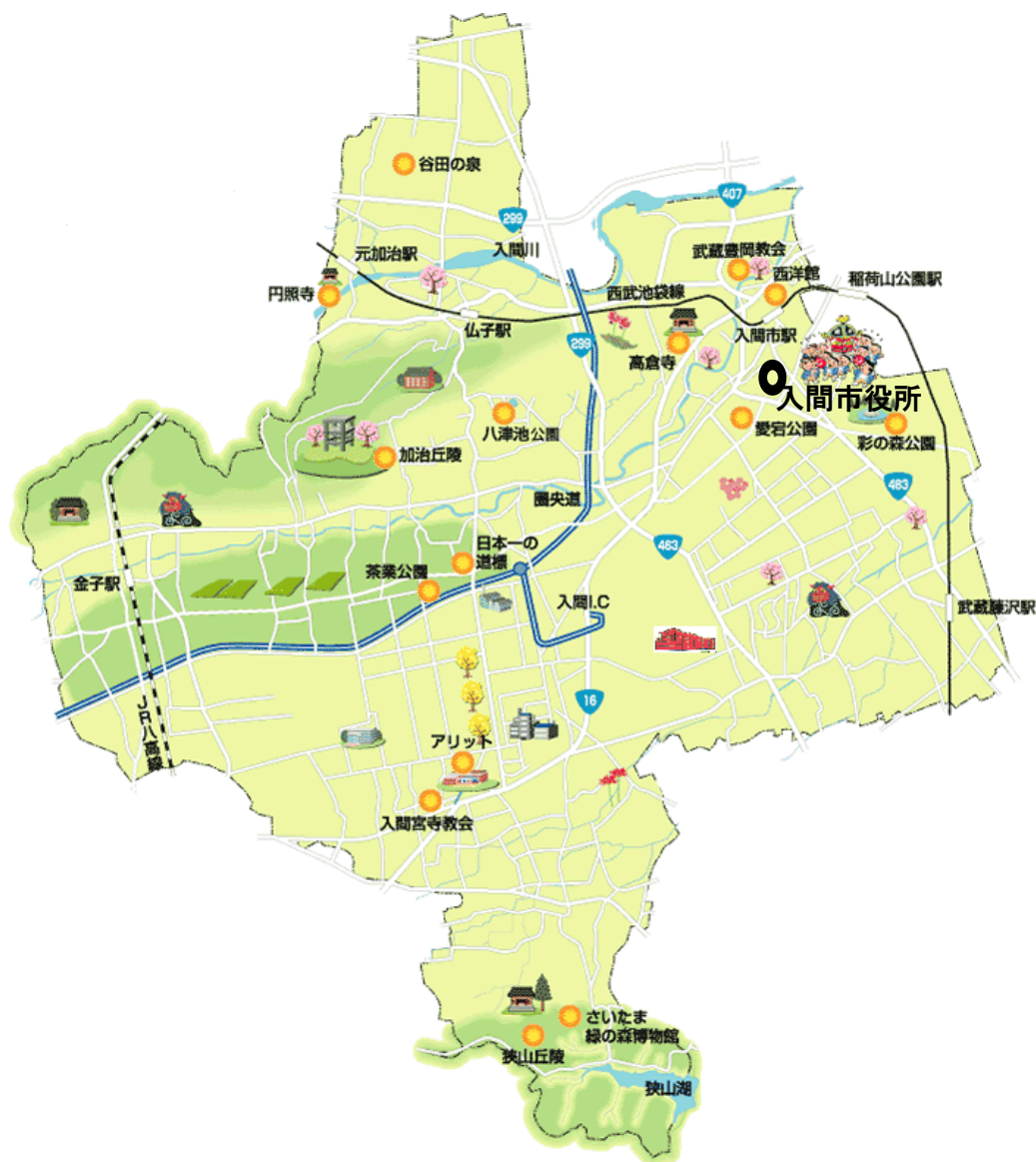
1 位置及び地勢

本市は、都心から40キロメートル圏に位置する緑に恵まれたまちである。面積は、44.69平方キロメートルで、東西9.3キロメートル、南北9.8キロメートルの菱形をなしており、周囲は、埼玉県所沢市、狭山市、飯能市及び東京都青梅市、瑞穂町にそれぞれ接している。

市域全体は、海拔60メートルから200メートルのややなだらかな起伏のある台地と丘陵からなり、市東南端と西北端には、それぞれ狭山丘陵と加治丘陵とがあり、市域の約10分の1を占める茶畑とともに緑の景観を保っている。

また、市の西北部には荒川の主流である入間川が流れ、中央部に霞川、南部に不老川がそれぞれ東西に流れ、優れた景観をなしている。

地質は、地表が軽い埴質壤土で、地下は関東ローム層と呼ばれる砂壤土質の洪積火山灰土でそれぞれ形成され、肥沃な地味は茶樹、野菜等の栽培に適している。



2 沿革

入間市の市制施行は、昭和41年11月1日であったが、その歴史はかなり古くまでさかのぼることができる。すでに、縄文時代に先人が住みついていたことは縄文式土器の発掘によって明らかにされており、その中でも坂東山遺跡は最大で住居跡や土器等が数多く発掘されている。

中世においては、武士団が勢力をもち入間市でも村山党の金子氏、宮寺氏及び丹党の加治氏などが武蔵武士団の一員として活躍した。この時代の史跡として瑞泉院には、金子氏一族の宝篋印塔がみられ、高正寺にも巨大な板碑が遺されている。

江戸時代当地方は、天領、藩領、旗本領と支配が入り混じっていたものの経済活動は活発化していった。特に江戸末期において扇町屋は、穀物市や木綿市が立ち、地域経済の拠点として栄えた。

明治期に入り、現在の入間市の原型ともいえる町村（豊岡町、金子村、宮寺村、藤沢村、東金子村、元加治村、元狭山村）が成立し、また繊維工業のめざましい発展がみられた。戦後、町村合併が促進され、昭和31年9月30日、豊岡町、金子村、宮寺村、藤沢村及び西武町の一部（旧東金子村）をもって合併し武蔵町が発足した。その後、昭和33年10月、元狭山村の一部を合併し、昭和41年11月1日、埼玉県で25番目の市として「入間市」が誕生した。さらに、昭和42年4月1日、西武町との合併もなり現在の市域を構成するとともに首都圏近郊都市としての行政基盤が確立された。

3 人口動態

(1) 人口・世帯の推移（各年1月1日）

入間市統計書

区分 年	面積 km ²	世帯数 世帯	人口			世帯当り 人数 人/世帯	人口密度 人/km ²
			増加数 人	増加率 対前年%	人		
22	44.74	59,891	150,914	365	0.24	2.52	3,373
23	44.74	60,562	151,004	90	0.06	2.49	3,375
24	44.74	61,113	150,651	-353	-0.23	2.47	3,367
25	44.74	61,162	150,367	-284	-0.19	2.46	3,361
26	44.74	61,804	150,216	-151	-0.10	2.43	3,358
27	44.69	62,439	149,952	-264	-0.18	2.40	3,355
28	44.69	63,112	149,593	-359	-0.24	2.37	3,347
29	44.69	63,774	149,124	-469	-0.31	2.34	3,337
30	44.69	64,436	148,723	-401	-0.27	2.31	3,328
31	44.69	65,314	148,442	-281	-0.19	2.27	3,322

平成31年1月1日現在の人口は148,442人で、減少傾向にあるが、世帯数は増加している。

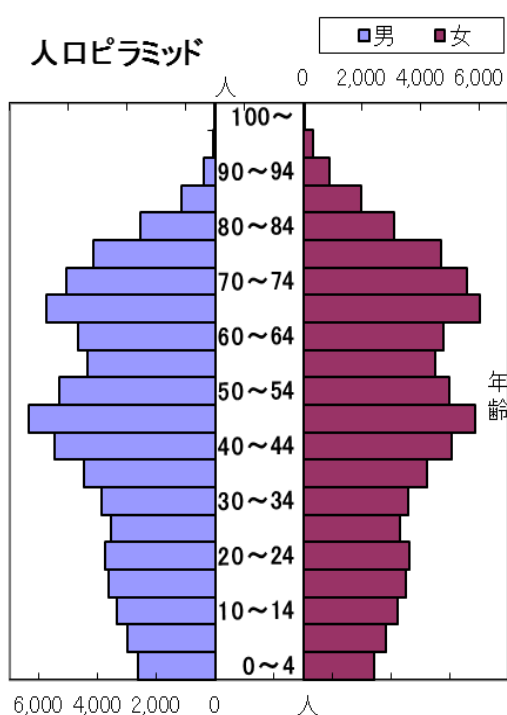
※平成27年以降の面積は、国土地理院発表の全国市町村別面積による変更

(2) 人口動態推移 (単位：人) 入間市統計書

区分年	自然動態			社会動態			増減
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
21	1,132	1,098	34	6,118	5,787	331	365
22	1,138	1,099	39	5,832	5,781	51	90
23	1,072	1,137	-65	5,432	5,721	-289	-354
24	1,079	1,097	-18	5,516	5,782	-266	-284
25	1,038	1,123	-85	5,379	5,445	-66	-151
26	1,009	1,193	-184	5,211	5,291	-80	-264
27	1,035	1,229	-194	5,241	5,406	-165	-359
28	963	1,266	-303	5,116	5,282	-166	-469
29	961	1,285	-324	5,206	5,283	-77	-401
30	894	1,340	-446	5,462	5,297	165	-281

(3) 階級別人口 (平成31年1月1日)

年齢	男	女	合計	構成比
年少人口				
0~4	2,646	2,440	5,086	3.43
5~9	2,998	2,829	5,827	3.93
10~14	3,370	3,239	6,609	4.45
計	9,014	8,508	17,522	11.80
生産年齢人口				
15~19	3,648	3,509	7,157	4.82
20~24	3,761	3,636	7,397	4.98
25~29	3,571	3,288	6,859	4.62
30~34	3,867	3,597	7,464	5.03
35~39	4,488	4,232	8,720	5.87
40~44	5,484	5,078	10,562	7.12
45~49	6,354	5,873	12,227	8.24
50~54	5,324	5,002	10,326	6.96
55~59	4,373	4,522	8,895	5.99
60~64	4,664	4,773	9,437	6.36
計	45,534	43,510	89,044	59.99
老年人口				
65~69	5,751	6,034	11,785	7.94
70~74	5,092	5,599	10,691	7.20
75~79	4,156	4,718	8,874	5.98
80~84	2,556	3,087	5,643	3.80
85~89	1,146	1,981	3,127	2.11
90~94	388	910	1,298	0.87
95~99	68	339	407	0.27
100~	4	47	51	0.03
計	19,161	22,715	41,876	28.21
合計	73,709	74,733	148,442	100



(4) 死因別の年次状況

(単位：人) 埼玉県保健統計年

区分年	総数	結核	悪性新生物	糖尿病	高血圧性疾患	心疾患(高血圧性を除く)	脳血管疾患	大動脈瘤及び解離	肺炎	慢性閉塞性肺疾患	喘息	肝疾患	腎不全	老衰	不慮の事故	自殺
	男 591	1	202	12	0	107	59	7	52	12	1	9	16	9	13	16
	女 502	1	136	7	1	94	44	7	53	0	2	6	11	37	7	11
25	合計 1,127	1	352	13	2	176	114	11	121	14	2	16	27	47	22	33
	男 633	1	219	7	0	88	61	8	69	11	2	8	19	8	12	21
	女 494	0	133	6	2	88	53	3	52	3	0	8	8	39	10	12
26	合計 1,198	0	372	15	6	203	96	9	117	18	2	16	14	53	23	36
	男 652	0	216	6	3	106	49	5	65	13	0	11	8	10	15	24
	女 546	0	156	9	3	97	47	4	52	5	2	5	6	43	8	12
27	合計 1,219	0	413	18	3	211	94	14	129	11	0	12	16	47	10	25
	男 699	0	262	8	3	116	48	7	79	8	0	7	9	13	6	17
	女 520	0	151	10	-	95	46	7	50	3	0	5	7	34	4	8
28	合計 1,272	1	397	18	8	204	107	16	139	14	1	17	22	83	28	28
	男 677	1	229	11	4	108	46	9	79	11	0	11	9	23	18	22
	女 595	0	168	7	4	96	61	7	60	3	1	6	13	60	10	6

